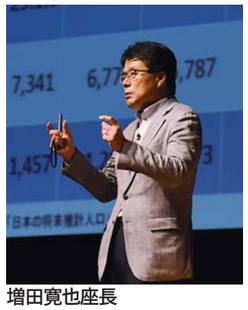
建設実現の鍵は地元の熱意

いわてＩＬＣ加速器科学推進会議（亀卦川富夫代表幹事）などが主催する「先端加速器科学技術推進シンポジウム２０１４in東北　ＩＬＣの日本実現に向けて」が８月23日、市文化会館（Ｚホール）で開催されました。本シンポジウムは、昨年のＩＬＣ立地評価会議による国内建設候補地決定から１年の節目に合わせて実施。高エネルギー加速器研究機構（ＫＥＫ）鈴木厚人機構長、日本創成会議増田寛也座長、先端加速器科学技術推進協議会大型プロジェクト部会山下了部会長の３氏が講演しました。市民など約８０人が集まった会場内は、ＩＬＣの建設実現に期待を寄せる熱気であふれました。

鈴木厚人機構長


増田寛也座長

山下了部会長

はじめに「国際リニアコライダー（ＩＬＣ）が目指すもの」と題し、鈴木氏が登壇。素粒子研究の最前線に触れ「ヒッグス粒子の発見により、ＩＬＣ建設に向け加速。その先に物質・宇宙の起源の解明が待っている」と解説しました。ＩＬＣの果たす役割について「日本に世界中から多くの研究者が集まり研究が行われることは、世界平和への大きな貢献」と述べ、国際都市の形成にも期待を寄せました。

次に「人口減少時代とＩＬＣへの期待」と題し、増田氏が講演。増田氏は、若年女性の減少と地方から東京圏への若者流出が人口減少の要因と主張しながら「適切な少子化対策と東京一極集中対策により、将来、安定的な人口規模になる」と指摘しました。「ＩＬＣは人口減少問題を打開できる」と断言し「地域から実現に向けた熱意を示してほしい」と呼び掛けました。

最後に、山下氏が「国際リニアコライダー（ＩＬＣ）実現への道」と題して講演。日本政府がことし４月からＩＬＣ計画の推進の是非について本格的な検討を開始したと説明し、この地域の特色を生かした国際里山文化圏の形成を目標に「地域と共にプロジェクトの実現を目指したい」と訴えました。また、ＩＬＣの実現には、オールジャパンでの盛り上がりが必要と強調し「地域みんなで一緒にできる『社会参加型プロジェクト』でＩＬＣを社会に定着させていくことが非常に重要」と締めくくりました。

interview

ＩＬＣ出前授業で講師担当の皆さんと一緒に奮闘しています。生徒たちの反応も良く「授業が面白かった」「ＩＬＣで地域が元気になる」「自分もＩＬＣに携わりたい」など、皆さんからさまざまな声をいただき感動しています。授業を受けた生徒たちを通し、宇宙や科学、ＩＬＣの魅力が大人にも広がればと期待しています。

初めての試みで、試行錯誤している面も多くあり、スタッフも工夫しながらの対応です。この授業で生徒の皆さんに、理科が楽しいと思える切り口を見つけてほしいですね。今後も、地域の子どもたちが“志”を高めるための手助けができればと思っています。

中学生　ＩＬＣ出前授業

ＮＰＯ法人 イーハトーブ宇宙実践センター
大江 昌嗣 理事長

水沢中学校２年
佐藤 健哉 さん

出前授業では、ＩＬＣで新しい素粒子を探す実験をするということが分かりました。

ＩＬＣによって、奥州市が世界と文化を共有し、交流ができる場になることを期待しています。

水沢中学校２年
箱崎 瑞希 さん

宇宙誕生の謎に迫る実験が身近で行われるということに驚きました。ＩＬＣができれば、奥州市の知名度が上がると思います。もっとこの地域のことを世界の人たちに知ってもらいたいです。

外国人への〝おもてなし〟を学ぶ

市国際交流協会（佐藤剛会長）は８月１日、奥州商工会議所で「『おもてなし』に活かす英語研修会」を開催しました。研修会には、ホテルや金融機関など14事業所から20人が参加。本研修会は、ＩＬＣの建設が実現すると多くの外国人研究者などがこの地域に来ることから、英語でのおもてなし〟を学んでもらおうと開催したものです。

研修では、ＩＬＣサポート委員会（ビル・ルイス委員長）委員の遠藤ペルリタさん＝フィリピン出身＝が「まちの国際化に必要なこと」と題して講演。初来日の際に、東京駅で知人を探すために駅員に館内放送をお願いしたところ、大きな声で「あっち」とだけ言われ、ショックを受けた経験を紹介しました。一方、成田空港では、スタッフが困っている人を助けようという姿勢があり、同じ目線で話を聞いてくれたことを〝素晴らしい〟と評価。外国人への対応は「英語が話せなくても少しの思いやりがあれば、お互い気持ちよくコミュニケーションがとれる」と訴えました。

講演後は、業種ごとに①宿泊施設②金融③販売④飲食⑤住宅設備――の分科会に別れ、接客で必要な英単語や接客方法について外国人講師から直接学んでいました。

ユーモアを交えながら話す外国人講師

建設実現に向けた取り組みへ

今回ご紹介した活動のほか、市内ではさまざまな取り組みが進んでいます。また、昨年の国内建設候補地の一本化以降、研究者による北上山地に合わせたＩＬＣ施設の詳細設計が進められています。

一方、政府は文部科学省内にＩＬＣに関する有識者会議を設置し、建設コストの精査や国際的な経費分担などについて検討を進めています。現在、ＩＬＣ計画は正式な国家プロジェクトとして位置付けられていませんが、今後、正式な国家プロジェクトとなるためには、広く国民の理解を得る努力が必要となります。

建設実現をより確実なものにするためには、市がこれまで実施してきた講演会や情報発信などの取り組みにとどまらず、今回ご紹介した活動のように、市民の皆さんから地元の期待と熱意を発信できるイベントなどが不可欠となります。

東北を照らす「希望のひかり」となるＩＬＣ。その実現へ向け、さらに活動を展開していきましょう！

interview

県内在住の外国人を講師として、英語による『おもてなし』の研修会を開催しました。今回は、分科会ごとに実践に則した内容にするなど、工夫しながら研修を実施。単に言語能力を高めるだけでなく、コミュニケーション能力を高め、人と人とのつながりを持てるようにと考えています。

この研修会だけでなく、医療機関を対象とした研修会も始めています。今後も、事業所などの要望に応えながら、言語や文化の違いを乗り越えることができるよう、さらに研修の場を設けていきたいですね。

『おもてなし』に活かす英語研修

市国際交流協会
渡部 千春 事務局長

プラザイン水沢
サービス担当トレーナー
佐々木 美幸 さん

今回の研修では、英語が話せなくても、ジェスチャーで伝えることの重要性を学びました。受講者の英語レベルに応じた研修会を開催していただければ、もっと参加しやすくなると思います。

プラザイン水沢
フロントグループ
伊達 弘子 さん

ホテルで必要な英語や接客を学びました。外国人のお客様は、慣れない土地で緊張する場面も多く、ホテルで「ホッ」とする場を提供できれば――。そして、地元の文化も英語で紹介したいですね。